

平成 25 年度国立吉備青少年自然の家教育事業

子育て支援ハートフルキャンプ

1 回目 平成 25 年 11 月 15 日 (金) ~ 11 月 17 日 (日)

2 回目 平成 26 年 1 月 31 日 (金) ~ 2 月 2 日 (日)

1. 事業の目的 (趣旨・ねらい)

不登校などの子育てに悩みがある家族に応じた活動プログラムを提供し、体験活動を通して、子育てについて考えたり、親子や参加者間、関係機関等との人間関係をつないだりして、子育て支援を行う。

2. 事業の概要

(1) 期日

1 回目 平成 25 年 11 月 15 日 (金) ~ 11 月 17 日 (日)

2 回目 平成 26 年 1 月 31 日 (金) ~ 2 月 2 日 (日)

(2) 募集人員, 対象

子育てについての悩み (「不登校気味である」あるいは「現在不登校」等) がある小学生の保護者とその家族各回 8 組程度

(3) 参加者

< 1 回目 > 3 家族 10 人 (岡山県 2 家族 8 人, 広島県 1 家族 2 人)

	家族 1	家族 2	家族 3	合計
子ども	1 人 (小 4)	1 人 (小 5)	1 人 (小 6)	3 人
保護者	2 人	1 人	2 人	5 人
兄弟姉妹	0 人	0 人	2 人	2 人
合計	3 人	2 人	5 人	10 人

< 2 回目 > 4 家族 10 人 (岡山県 3 家族 8 人, 広島県 1 家族 2 人)

	家族 1	家族 2	家族 3	家族 4	合計
子ども	1 人 (小 3)	1 人 (小 4)	1 人 (小 5)	1 人 (小 5)	4 人
保護者	1 人	2 人	1 人	1 人	5 人
兄弟姉妹	1 人	0 人	0 人	0 人	1 人
合計	3 人	3 人	2 人	2 人	10 人

(4) 講師

・実行委員会委員

松末 昌樹 氏 (岡山県総合教育センター 生徒指導部指導主事)

渡邊 誠二 氏 (学校法人おかやま希望学園 学園長)

山下 弥生 氏 (一般財団法人河田病院 臨床心理士)

木村 都 氏（NPO法人KUKKA 副代表理事）
村本 和孝 氏（NPO法人青少年自立支援リ☆スタート事務局長）

・交流会

松末 昌樹 氏（岡山県総合教育センター 生徒指導部指導主事）
渡邊 誠二 氏（学校法人おかやま希望学園 学園長）
木村 都 氏（NPO法人KUKKA 副代表理事）
山下 弥生 氏（一般財団法人河田病院 臨床心理士）
下原 美由紀氏（学校法人おかやま希望学園 保護者）
山田 美紀 氏（学校法人おかやま希望学園 保護者）

・ツリーイング指導

藤原 基勝 氏（遊木皆）
長瀬 えみ 氏（遊木皆）

（5）企画・運営のポイント

- ・ 3年目の実施を迎え、モデル的プログラム開発をより充実させるために今年度も実行委員会を立ち上げ、参加対象者や広報活動、活動プログラム等について助言をいただいた。実行委員については、不登校問題に関わっておられる学識経験者や活動団体員など幅広い視点から助言をいただけるよう人選した。キャンプ当日は講師として実行委員やおかやま希望学園の保護者にも参加していただき、保護者の立場からも子どもの成長や進路など具体的な悩みについて相談や助言をいただけるようにした。
- ・ 広報活動は、県内市町村の教育委員会や適応指導教室、関係機関をはじめ校長会に直接訪問し、趣旨の説明をさせていただいたり申込書を置かせていただいたりした。
- ・ 第1回目の開催を11月とすることで、参加者に道路の凍結などの心配がないようにした。また、日程は参加家族のニーズに応じられるよう1泊2日と2泊3日いずれの日程でも参加できるようにし、2泊3日の場合は保護者が参加しやすいように受付時間を夕方設定した。
- ・ 参加者が安心して活動できるように、ボランティアスタッフは2回とも参加できる者とするとともに、事前に把握した参加者の状況（保護者の思いや子どもの実態）を、共有することで手厚い支援に当たるようにした。
- ・ 参加者が自分のペースで活動に取り組めたり活動の中で参加者同士の交流ができたりするように活動にゆとりをもてる時間配分とした。

3. 活動の内容等

(1) 日程表

(1回目) 平成25年11月15日(金)～11月17日(日)

1日目		2日目		3日目	
時程	活動	時程	活動	時程	活動
		6:45	起床・洗顔	6:45	起床・洗顔
		7:20	掃除	7:20	掃除
		7:45	朝のつどい	7:45	朝のつどい
		8:00	朝食	8:00	朝食
			*現地集合	9:00	片付け
		9:00	受け付け(1泊2日の方)	9:30	点検
		10:00	ツリーイング	10:00	選択活動
		12:00	昼食		・クラフト
		13:00	開会式		・マウンテンバイクなど
		13:15	オリエンテーション	12:00	昼食
		13:30	アウトドアクッキング	13:00	休憩
			クラフトなど	13:30	まとめのクラフト
17:00	*現地集合			15:00	閉会式
17:35	受け付け(2泊3日の方)	19:00	【児童】ナイトハイク	15:30	解散
19:00	夕食		天体観察		
	選択活動		(雨天:クラフト)		
	・ナイトハイク		【保護者】交流会		
	・ボードゲームなど	20:30	入浴		
20:30	入浴	22:00	就寝		
22:00	就寝				

(2回目) 平成26年 1月31日(金)～ 2月 2日(日)

1日目		2日目		3日目	
時程	活動	時程	活動	時程	活動
		6:45	起床・洗顔	6:45	起床・洗顔
		7:20	掃除	7:20	掃除
		7:45	朝のつどい	7:45	朝のつどい
		8:00	朝食	8:00	朝食
			*現地集合	9:00	片付け
		9:00	受け付け(1泊2日の方)	9:30	点検
		10:00	ツリーイング	10:00	選択活動
		12:00	昼食		・クラフト
		13:00	開会式		・マウンテンバイクなど
		13:15	オリエンテーション	12:00	昼食
		13:30	アウトドアクッキング	13:00	休憩
			【児童】クラフトなど	13:30	まとめのクラフト
17:00	*現地集合		【保護者】交流会	15:00	閉会式
17:35	受け付け(2泊3日の方)	19:00	ナイトハイク	15:30	解散
19:00	夕食		天体観測		
	選択活動		(雨天:クラフト)		
	・ナイトハイク	20:30	入浴		
	・ボードゲームなど	22:00	就寝		
20:30	入浴				
22:00	就寝				

(2) 活動の状況

(1回目)

第1回目の参加者は、すべて1泊2日となった。

ツリーイングには、参加者全員が取り組んだ。昨年度、ツリーイングを経験したこともあり、ギアの取り付けや落下防止の結び目の結び方の確認などを混乱することなく行うことができた。昨年度と比較すると子どもたちが積極的に登る姿に保護者は成長を感じていた。

午後の活動は、パン作りとチリビーンズ作りに取り組んだ。炭をおこしたりマシュマロを食べたりする中で、家族ごとの活動を離れて子ども同士で会話を楽しんだり互いに助け合ったりする場面が見られた。チリビーンズを煮込んでいる間の時間を有効に使ってペットボトルランタン作りに取り組んだ。ボランティアの支援のもと途中で投げ出すことなく最後まで集中して作品を作ることができた。夜は、子どもはナイトハイク、保護者は交流会を行った。ナイトハイクでは、自分の作ったペットボトルランタンを使い暗闇を探検した。後で天体観察で月の絵を描いた。保護者会では、互いの子どもの成長を確かめ合い、講師やおかやま希望学園の保護者の方から進路や生活、日々の対応など参加者の質問に対して的確な回答をしていただいた。

2日目の午前中は、活動を選択出来るように設定し、興味関心のある活動やできそうな活動を選んで行った。マウンテンバイクを選択した家族が1家族、ダンボール工作を選択した家族が2家族であった。マウンテンバイクは、家族で気持ちの良い汗をかき「第2回目のハートフルキャンプもマウンテンバイクがやりたい」と満足そうであった。ダンボール工作では、年下子どものためにダンボールで家を作る本人の姿に保護者が成長を感じた場面があった。

2日目の午後は、写真立て作りと感想文を書き、今回のハートフルキャンプの思い出や成長を言葉や作品にまとめた。



[ツリーイング]



[焼きマシュマロ]



[パン作り]



[ダンボール工作]



[写真立て作り]



[写真立て]

(2回目)

2回目は、1回目に参加した2家族と昨年度参加したことがある1家族、新規の1家族が参加した。その内、2泊3日で参加する家族が1家族あった。家族の意向で、1日目は宿泊棟でボードゲームを楽しむことにした。昨年度楽しんだボードゲームだったので、継続して参加した子どもがルールを教えたり進行したりした。

2日目の最初の活動のツリーイングは、子ども達が楽しみにしていた活動ということもあり、1回目にも増して熱心に登っていた。どの子どもも家族やインストラクターの声かけがなくても、木の1番高いところまで登り保護者を驚かせていた。

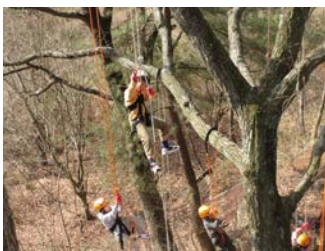
午後は、子どもと保護者が分かれて活動をした。子どもは、ペットボトルあんどんを作った。折り紙を切り抜いた模様を貼り付けたりペンで色を塗ったりと夢中になって作っていた。保護者は交流会を行った。1回目同様、実行委員やおかやま希望学園の保護者から進路や生活、日々の対応など参加者の質問に対して的確に回答していただいた。また、参加者同士でアドバイスをする場面も見られた。

その後、夕食作りを行った。餅をつくときに、親子でついたり子ども同士でついたり、ボランティアとついたりと相手を交代しながら行ったので、参加者同士がさらに打ち解けることができた。

夜は、キャンドルボード作りを行った。何の文字を作るかを話し合うときには、子どもたちから様々な意見が出た。折り合いをつけながら話し合いを行い「ハッピー」という文字に決定することができた。

3日目の午前中は選択活動を行った。樹木ビンゴを選択する家族が3家族で個々のコースを巡るのではなく、みんなと一緒にコースを巡った。

午後からは、写真立て作りと感想文を書き、今回のハートフルキャンプの思い出や成長を言葉や作品にまとめた。参加者から「集合写真をとろうよ」という声があり、ハートフルキャンプの参加者同士のつながりが出てきたことを強さを感じた。



[ツリーイング]



[餅つき]



[餅つき]



[ペットボトルあんどん作り]



[ペットボトルあんどん]



[キャンドルボード]

4. 成果・課題

(1) 成果

- ・昨年度や1回目, 2回目に同じ活動プログラムを導入することで, 保護者は子どもの成長を見取ることができた。子どもにとって同じ活動に取り組むことは, 見通しを持てることから意欲と自信をもって活動したり工夫を持って活動したりできた。
- ・継続して参加することにより参加者同士のつながりを強めることができた。子ども同士では, 教え合ったりけんかを仲裁しようとしたりする場面が見られ, 保護者同士では, 互いの子どもの成長を認め合ったり悩みなどを話し合ったりする場面が見られた。子どもたちが他の保護者と話をしたり活動したりする場面も見られ, 自分の親以外に自分の成長を認めてくれる大人の存在があることに気付き居心地の良い場所となっていた。
- ・保護者会に中学生や高校生の不登校の問題をかかえていた保護者を講師に招き話し合いに加わってもらった。同じ悩みをかかえる先輩保護者の話は, 将来の進路や成長に不安がある保護者にとって具体的な話が聞くことができ不安感の解消に繋げることができた。
- ・多種多様な立場の実行委員や保護者にメンバーに入ってもらったことで, 効果的なプログラムを提供したり貴重な助言をいただいたりすることができた。

(2) 参加者の声

【1回目】 満足度・・・100%

(参加者自由記述)

- ・今回のキャンプに参加して, ツリーイング, マウンテンバイク等周囲の人々の声かけによって最後まで取り組むことができ, 本人の中でかなり達成感を感じているように思います。また, 周囲の方々の温かい空気の中で, のびのびと自由な発想が出せていたように感じます。
- ・普段の生活の中でも, 子どもが何かを頑張っている姿に注目してそれを誉めたりちゃんと見ているよという合図を伝えたりし, 本人の自信, やる気へつなげていきたいと思いました。
- ・3, 4回目の参加でしたが毎回いろんな面でバージョンアップされていてすごいと感じています。ありがとうございました。いつもお風呂の時間がバタバタなのでもうちょっとゆっくり入りたいなと思います。
- ・毎日子どもたちを見ていると成長をなかなか感じるできないけれど, 9ヶ月ぶりにハートフルキャンプに来て, 成長しているのが, 改めて分かってうれしかったです。変化というか, また子育てがんばろうって思えました。お世話になりました。
- ・初日のツリーイングに向かう際, 今回は徒歩でしたが, ボランティアの方や参加者の方と話すことができ良かったと思う。
- ・クッキングを初日にもうけて, じっくり時間をかけたのも良かった。親子, ボランティア含めたコミュニケーションが楽しめた。
- ・いつもながらスタッフ, ボランティアの方の献身的な対応には頭が下がる。

- ・なかなか普段ではこういったイベントの機会がないので参加すると心が洗われるような気分になる。親である自分にとってもありがたいです。

【2回目】 満足度・・・100%

(参加者自由記述)

- ・子どもが「自由時間があつたらいいのにな～」と言っていました。
- ・やってみて「もっとやりたい！」と思うこともあるので目新しい活動を次々にするよりも選択できる時間（休みたい人は休む。活動を続ける。ゲームをする等。）を多めに入れてもらうのも良いと思います。
- ・活動内容も事前のアンケートをふまえてくださっていて更に皆が1つになれるような雰囲気作りなども工夫されていて良かったです。
- ・内容が充実していてあれもこれもと欲が出てしまい「時間がもっと欲しい」と感じるほどでした。
- ・普段の生活の中では、慌ただしくてつい見過ごしがちだった子どもの成長をじっくりみることができました。
- ・他の方の子どもに対する対応の話を知ると、夫婦での今までの子育ての振り返りになり、今まで率先して子どものために勉強、行動してきた妻に感謝の念を感じるようになった。

(3) 今後の課題等

- ・広報に力を入れているが、新規の参加者を多く増やすことができなかった。広報の時期を早めることや広報場所を広めることを検討していきたい。

担当：企画指導専門職 飯石 浩二